

入本郷のゴダチ

緒川地域の入本郷地区には、標高150m程の権現山があります。隣の油河内地区にも権現山があり、こちらは標高284mで、山頂の展望台から美和の花立自然公園や大子方面を見ることができ、登山者にも人気の山です。どちらも山頂には富士山権現の小さな祠がまつられていて、この地に、富士山を神として信仰する富士信仰（浅間信仰）が根付いていたことがわかります。

このうち、入本郷の権現山は、かつてはどの地域でも行われていた、古くからの伝統行事を守り伝えていきます。



▲入本郷の権現山

それは男児の成長を願う通過儀礼として行われている「ゴダチ」です。

「ゴダチ」は、数え年5歳の男児が父や祖父と共に、1週間程毎日近くの川で禊をし、家の中でも家族と別室、別火（家族と別の火で食事などの用意をすること）で過ごして精進潔斎をします。そして、清められた体で霊山に登り参拝し、終了後は満願を祝って宴席を設けます。「ゴダチ」または「オショウジン」などと呼ばれ、精進すなわち身を浄める行為が重視されていたことがわかります。ですが、いつしか精進潔斎の部分は簡略化され、まれにしか行われなくなり、霊山に登る行為だけが残りました。今では「ゴダチ」といえば山に登る行為を指しています。かつては組内全戸が参加しましたが、今では「ゴダチ」を行う家は珍しくなりました。

「ゴダチ」は入本郷地区のうち重田・東沢・保内・鹿所折の4つの組で行われています。発祥は明らかではありませんが、入本郷の富士山権現は、南北朝時代の小瀬城主小瀬義春の重臣であった同村の土豪大武弾正が信仰した、とも言われています。

「ゴダチ」は田植え終了後の土用入りの早朝に行われます。山には5歳の男児とその父または祖父、組の年番世話人が登ります。この行事に関しては現在も女人禁制で、男児の母親も登ることはできません。男児の父や祖父は、あらかじめ川などで適当な大きさの石を拾っておき、男児が登る時、それを頂上まで担ぎ上げます。かつては力比的な要素もあり、参加者はより大きな石を持ち上げようとしたそうです。頂上の富士山権現には、これまで持ち上げられた石が積み上げられています。



▲富士山権現

山頂に着くと、富士山権現の周囲を参拝者全員で7回回り、参拝した後、食事をします。

富士山権現の周りを回る時は「オーセンドー、ダイセンドー」と唱えながら回ります。これはこの行為が、地域の安全と息災を祈願するために行われ、なおかつ嵐除けの千度参りを兼ねていることを意味しています。これらの参拝が終わった後、かつては男児を皆で胴上げして祝ったそうです。



▲石を担ぎ上げる男児の祖父

この行事が終わると男児は、幼児から少年へ成長したと認識され、地域の一員として認められることになるのです。

※「入本郷のゴダチ」の記録映像は歴史民俗資料館が制作したDVD「常陸大宮市のまつりと行事」（茨城ビデオパック2009年）に収録されています。図書情報館で視聴することができます。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450